



114
A 2619
2

現行ノ府縣制ハ發布以來既ニ九年ノ星霜ヲ經タリ
 今其ノ實施ノ情況ニ就キ之ヲ觀察スルニ談制ニ於
 ケル規程ノ不備ナルカ為ニ從來幾多ノ紛擾ヲ生シ
 タルノ事實尠カラサルノミナラス其ノ解釋ノ疑似
 ニ涉リ理事者ニ於テ適從スル所ヲ知ルニ苦ハモ
 頗ル多ク甚キニ至ラハ法文前後ノ關係其ノ脈絡係
 理ヲ得サルモノアリ舊法ノ存廢ニ付立法ノ旨趣明
 瞭ヲ缺クモノアリ為ニ適用上容易ナラサル困難ヲ
 醸シタル事一ニシテ足ラズ此レ等不備ノ點ヲ改正
 シ併セテ地方ノ實況ニ適應スルノ良制ト為スハ寔
 ニ刻下ノ急務ナリト信ス

府縣制改正案說明要領

大正十一年四月



現行府縣會議員ノ選舉ニ於ケル複選ノ制タル之ヲ
選舉制度ノ本旨ト我既往及現在ノ事情ト鑑ミル
ニ改メテ直接選舉ノ制トナシ以テ直ニ民意ヲ表彰
セシムルノ適當ナルヲ認ム蓋シ複選法ノ利益トハ
ル所ハ選舉ノ方法簡ニシテ競争ノ弊害全般ニ涉ラ
ス隨テ之カ取締ヲ為スノ便ナルコト直接選舉ノ制
ニ比シ優レルモノアルニ在リ然レトモ選舉方法ニ
關シ直接選舉ノ制ヲ採ルト同時ニ務メテ選舉ノ煩
ヲ避ケ其ノ手續ヲ省略スルニ於テハ必スシモ前陳
ノ缺點ヲ避クルヲ難シトセス其ノ競争ノ弊害廣キ
ニ涉リ之カ取締ニ困難ヲ感スルニ至リテハ事實ニ
於テ固ヨリ免レサル所ナリト雖現行ノ複選法ニ依

レハ地方議會ノ選舉ハ其ノ勝敗ノ争點一ニ市町村
會議員ノ選舉ニ集注スルカ故ニ市町村會議員ノ選
舉ニ集タル競争ハ為ニ劇甚ヲ加ヘ其ノ弊害ハ最モ
隣保團結ノ義風ヲ必要トス可キ市町村治ヲシテ党
派軌轢ノ渦中ニ投セシムルノ害アリ是レ現行ノ複
選法最モ非難ヲ免レサル所以ナリ
手續煩雜ナラシムルモ之ニ依リモ市町村行政
ノ圓滿ヲ闕クカ如キ弊害ヲ生スルハ一日之ヲ放
擱スヘキニアラズ是ヲ以テ改正案ニ於テハ複選法
ヲ廢シテ直接選舉ノ法ヲ採リ選舉權ノ擴張ヲ圖ル
ト同時ニ可成其ノ選舉ヲ簡易ナラシムルノ制ヲ設
ケ以テ複選法ヨリ生スル弊害ヲ除去シテ市町村行

政、圓滿ヲ期圖セントス是レ改正ノ最モ者ルシヤ
點ナリトス
以上述ナル外現行府縣制、不備ナル點ハ政府數年
ノ實驗ニ徴シ且衆議院提出ニ係ル改正案ト現行法
トヲ參酌シ改正増補セシモノ甚多シ其ノ重要ナル
事項ヲ舉ケレハ概左ノ如シ

第一章 總則

現行法、於テハ府縣ノ區域ニ關シ別ニ規定ヲ設ケ
スト雖境土ハ團體ヲ形成スル一要素ナルヲ以テ^{總則ノ冒頭}
府縣ノ團體ヲ成ス區域ヲ明記シ且其ノ區域ノ變
更ヲ為ス場合ニ於テ財產處分ヲ要スルトキハ府縣
參事會ノ意見ヲ徵スル等其ノ利害關係者ヲ代表シ

テ之ニ參與セシムルモノト為シタリ
現行法、於テハ府縣ノ府縣制ヲ施行スルモ其ノ府
縣ナル團體ハ公法上^{私法上}人格ヲ有スルヤ否判明ナテム
依テ改正案ニ於テハ明ニ府縣ノ人格ヲ認ムルト同
時ニ其權能ノ範圍ヲ限定シ府縣ハ法人トシ法律命
令ノ範圍内ニ於テハ自テ具ノ公共事務ヲ處理スル
ノ權能ナルコトヲ明カニシタリ
府縣ハ市町村ト異ニシテ其ノ數甚多カラナルヲ以
テ一般ノ法規ヲ設クルコト難キニテ依テ條例
ヲ以テ其ノ組織及住民ノ關係ヲ規定スルヲ必要ト
セス又府縣ノ營造物ハ國家ノ事業ニ屬スルモノ多
クシテ府縣ニ委任スルキモノ少ナキヲ以テ其ノ財

產及管造物、^{府縣}規則ヲ設クルヲ必要トセス依テ
改正案：於テハ條例及規則ノ設定ニ關スル規程ヲ
設ケス但シ府縣ノ財産及管造物ニ關シ其ノ管理方
法ヲ定ムルコトヲ得ルハ論ヲ俟テス

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

現行法：於テハ府縣會議員ノ選舉ハ被選ノ法ヲ採
リタリト雖前已ニ述ハタルカ如ク改正案：於テハ
市町村公民ノ直接選舉法ヲ採リタリ而シテ選舉競
爭、榮府縣ノ全般ニ涉ルヲ防クカ為ニ選舉區ヲ設
ケ且其ノ選舉區ハ現行制度ヲ參酌シ府縣ハ都市、
區域ニ依テシムルモト為シタリ

府縣會議員ノ定數ハ專ラ現行ノ制度ヲ襲用シタリ
現行ノ被選法ノ廢シ市町村公民ノ直接選舉ト為シ

大體地租ハ年額五円以上其ノ他ノ直接國稅ハ三圓以上ヲ

直接國稅年額五圓以上ヲ納ムルヲ要スルモト為
シタリ但シ府縣會議員ノ被選舉資格ハ現行法ニ於
テハ直接國稅年額十圓以上ヲ納ムルヲ要スト雖改
正案：於テハ實際ノ情況ニ鑒ミ且衆議院議員提出
ノ府縣制改正案ヲ參酌シテ選舉資格ト同一ノ程度
ニ下シタリ家督相續ノ場合ニ於テハ相續人ヲシテ
被相續人ノ納稅額ヲ其ノ納稅資格ニ算入セシムル
コト、為シ府縣ノ境界變更ノ為ニ生ズル現任議
員ノ選舉被選舉ノ資格ニ關スル異動ハ其ノ年限ヲ

中断セザルモノトシ被選舉權ヲ有セザル者ノ内ニ
新ニ收税官吏又ハ府縣ノ為請負ヲ為ス者ヲ加ヘ及
選舉事務ヲ管理スル官吏又吏員ノ被選舉權ヲ制限
シ候エテ此レ等ノモノニ在^在存^存テハ之ヲ罷メタル後一
ケ月ヲ経過セサル者モ亦被選舉權ヲ有セザルコト
ト為ス等現行法ノ不備ヲ補足シ且選舉ノ確實公平
ヲ得ンコトヲ旨トシタリ
複選法ヲ廢シ市町村公民ノ直接選舉法ヲ採リタル
結果選舉人名簿ノ調製ヲ要セリ是ノ點ニ付テハ專
ラ府縣會議員選舉規則ノ例ヲ襲用シテ一年据置名
簿ノ制ヲ採リ以テ選舉手續ヲ省略スルコトヲ務メ
タリ

投票ニ付テハ選舉ノ公平ヲラシムコトヲ期シ無^五記名
ノ制ヲ採リ此ノ主旨ヲ徹底セシカ為自ラ被選舉人
ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ニハ投票ヲ行フコ
トヲ禁シ其ノ他選舉人名簿ノ調製ニ關スル異議選
舉ノ効力ニ關スル異議議員資格ノ審査ニ關スル規
程及選舉ノ方法手續ニ關スル規程ニ付テハ最精緻ノ注意ヲ加
以テ權利ノ伸暢ヲシテ遺憾ナカラシメントテ期セリ
第ニ款 職務權限及處務規程定
府縣會ノ職務權限ハ現行法ヲ參酌シ規定セリト雖
更ニ使用料手数料等ノ賦課徵收ニ關スル事項積立
金穀等ノ設置及處分ニ關スル事項等ヲ議決スヘキ
規程ヲ增加シタルハ一ハ現行制度ノ不備ヲ補足シ

一八改正案中新ニ此等ニ關聯スル規程ヲ增補シ

タル結果ニ外ナラス

現行法ニ於テハ府縣會ハ議員三分ノ一出席スルヲ以テ定足數ト為スト雖改正案ハ議員定數ノ半數以上出席スルヲ以テ定足數ト為シタルハ衆議院提出ノ府縣制改正案ヲ參酌シ且實際ニ適當ナリト認メタルニ依ル

府縣會ニ於テ行フ選舉ニ關シテハ市町村會ニ於テ行フ吏員選舉ノ規程ヲ參酌シ現行法ニ比シ更ニ詳細ノ規程ヲ設ケタリ即ケ其ノ選舉ハ一名毎ニ匿名投票ヲ行ヒ有効投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ當選ト為シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ更ニ決選投票ヲ行

フテ原則トシ以テ選舉手續ヲ明確ナラシメタリ但シ場合ニ依リ府縣會ノ議決ニ依リ指名推選又ハ連

府縣會吏員ノ選舉ヲ除ク外

名投票ヲ用ルル者ハ均ク之ニ依リ規定セリ現行法ニ於テハ會議規則中制裁ヲ設クルエトテ明

許セズト雖改正案ニ於テハ此ノ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ出席停止ノ規程ヲ設クルコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ

第三章 府縣會

現行法ニ於テハ第三章ヲ府縣會吏員及委員ト

改正案ニ於テハ專ラ府縣會ノ統一ヲ期シ現行法ノ如ク市部會郡部會ノ規定ヲ存セズ必要ナル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ制定スルコトヲ為シタリ

シ府縣ノ議事機關タル府縣各事會ニ關スル事項ト
府縣ノ行政機關タル吏員及委員ニ關スル事項ト
一章ノ下ニ規定セリト雖改正案ハ本章ニ於テ專ラ
府縣各事會ニ關スル事項ヲ規定シ次章ノ府縣行政
ト為シ府縣ノ執行機關ノ職務權限並ニ給料給與ノ
支給等ニ關スル事項ヲ規定シ法文ノ整備ヲ圖ル
共ニ各機關ノ職務關係及其ノ權限ノ珍域ヲ明カ
シ將來ノ紛議ヲ避ケンコトヲ務メタリ

第一款 組織及選舉

府縣各事會ノ組織ハ概現行法ト異ナラハト雖改正
案ニ於テ府ノ名譽職各事會員ヲ八名ト為シ縣ノ名
譽職各事會員ヲ六名ト為シタリ是レ衆議院議員提

出ノ府縣制改正案ノ負數ト現行法ノ負數トヲ參照
シ之ヲ折衷シテ實際ニ適當ト認ムル負數ニ依リ
ルナリ

現行法ニ於テハ府縣各事會員ノ補充員ヲ補充スル
ハ單ニ投票多數ノ順序ニ依リ投票同數ノ場合
ニ處スル規程ヲ闕カセリ依テ其ノ投票ノ同數
トキハ年齡ノ順序ニ依ラシムルモト為シ又其
補充員ノ選舉ハ每通常會ニ限リタリト雖臨時會
於テモ補充員ノ關員ヲ選舉セシムルコトヲ得
テ隨テ其ノ選舉ノ時ヲ異ニスル場合ニ關スル補充
ノ順序ヲ明記スル等法文ノ不備ノ補足シ實際
宜ヲ圖リタリ

第二款 職務權限及廢務規程

府縣各事會、職務權限ハ概現行法ヲ參酌シテ規定セリト雖其ノ議決事項中新ニ府縣會ノ成立セハル場合ニ於テ府縣會ニ代テ議決ヲ為ス事府縣ニ係ル訴願訴訟及和解ニ関スル事ヲ増補シタルハ此等ノ事項タル共ニ各事會ノ權限ニ委スルヲ至當ト認メタルニ因ル

又現行法ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スルニキ工事、次第順次其ノ他必要ナル事件ヲ議決スト規定セリト雖其ノ規程^定タル甚漠然タルヲ以テ疑義ニ涉リ易ク且之ヲ實際ニ適用スル上ニ何テハ煩々困難ナル問題ヲ生スルヲ免ルニ且其ノ事項ヲ工事ニ限

ルハ殃キニ失スル標アリ依テ改正案ニ於テハ府縣費ヲ以テ支辨スルニキ^工事業ノ執行上重要ナル事項ハ各事會ノ議決ヲ經キモト為セリ其ノ他各事會ノ出納検査ニ関シテハ別條ヲ設ケテ之ニ處スル方法ヲ規定シタリ

現行法ニ於テハ各事會ノ會議ニハ會期ヲ設ケスト雖改正案ニ於テハ府縣知事ヲシテ之ヲ定メシムルコト、為シタリ

第四章 府縣行政

現行法：於ハ府縣ノ行政ナル章ナク從テ自治行政ニ関スル理事者ノ権限甚タ明確ヲ闕ケリ然レトモ府縣ヲ一ノ公共團體ト為シ其ノ公共事務ヲ認メタル以上ハ其ノ團體ノ行政ニ関スル規程ヲ設ケテルヲ得ス本章ハ之ヲ為シ必要ナル事項ヲ規定セリ

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

現行法：於テハ府縣ノ會計事務ヲ管掌スルキ吏員ニ付明文ノ規程ナキモ改正案：於テハ府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ府縣郡島廳官吏府縣吏員ノ中ニ就キ之ヲ命スルキモノト為シ以テ府縣ノ會計事務ニ関スル責任者ヲ定ムルヲ適當トシ之ヲ規程ヲ増補セ

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及
處務規程定

現行法ハ府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ其ノ行政事務ヲ
擔任スルニ付其ノ概目ヲ明細ニ規定セムト雖改正
案ニ於テハ府縣會及府縣參事會ノ職務權限ニ關ス
ル規程ト精粗其ノ宜シキヲ得セシメ且職權ノ畛域
ヲ明カナラシムル為メ市制町村制中市長町村長
ノ擔任スル市町村ノ行政事務ニ關スル規程ヲ參酌
シテ之ヲ規定シ府縣知事ハ府縣ノ公共事務ヲ處理
スル點ニ於テ從來ニ比シ其處務規程ヲ判明ナラシ
メシコトヲ期セリ

現行法ニ於テハ府縣吏員ノ懲戒處分ニ關シ別段ノ
規程ヲ設ケスト雖府縣吏員ノ懲戒處分ハ本制中ニ
之ヲ規定スルヲ至當ト認ム依テ改正案ニ於テハ新
之ヲ規定シ府縣知事ハ譴責ニ拾五圓以下ノ過怠
金及解職ヲ命スルコトヲ得ルモノト為シタリ而シ
テ其ノ懲戒處分ヲ府縣知事ニ任セシムルハ府縣官吏ノ
懲戒處分ノ例ヲ參酌セシメ在リ
現行法ニ於テハ府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ
職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡市長島司町村長ニ管
掌セシムルコトヲ得ル規程ナレト雖實際ニ於テ必
要ナルノミナラス市制町村制中ニハ既ニ市長町村
長ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ市町村ニ屬スルモノヲ

管掌スル規程^定、依リ之ヲ參酌シテ明カニ之カ
規程ヲ改テ
府縣會及府縣參事會ノ不當議決ニ對シ又ハ召集ニ
應^スモ若ハ議決ニキ事件ヲ議決ニサル場合、於
テ府縣知事、再議ヲ命シ或ハ專決處分ヲ為ス等ノ
規程ハ固^シテ府縣ノ内務、於^テハ機關ノ職權ニ關ス
ルモノ、ニシテ府縣ノ外部ヨリ府縣ノ行政ヲ監督ス
ルモノ、ニシテ又然ルニ現行法ハ右等ノ事項ヲ府縣
ト監督官廳トノ關係ヲ規定ス、キ監督ノ章中、規
定セリ、^ハ辭職正案、於^テハ改メテ之ヲ本款ニ規定
セリ、今古寺ノ事項、於^テハ現行法ヲ修正メシ點ヲ舉^ゲ
レハ、一府縣會府縣參事會ノ議決若ハ選舉ノ權限ヲ

超エ又ハ法律ニ背クト認ムル場合ハ府縣知事、直
ニ之ヲ取消シ又其議決ニ付テハ之ヲ取消ス、前一
應再議ニ付スルコトヲ得ルモノト為シ而シテ其ノ
處分ニ不服ナル府縣會府縣參事會ニハ訴訟訟ヲ
提起スルコトヲ許シ以テ枉屈ノ弊ナカラシムコトヲ
期シ、^ハ現行府縣制ニ於^テハ其ノ議決ノ不法越權
ナル場合、之ヲ取消ス、規程アリト雖選舉舉^ゲノ不法越權
ナル場合、處スル規程ヲ存セス又其ノ議決ヲ一應
再議ニ付シ議會ヲシテ反省セシムル餘地ヲ存セス
ニ府縣會府縣參事會ニ於^テハ府縣ノ收支ニ關シ不適
當ノ議決ヲ為シタルトキハ府縣知事ハ再議ニ付シ
タル後若ハ再議ニ付セスレテ直ニ内務大臣ノ指揮
ヲ請フコトヲ得シメタリ又現行法ニ於^テハ議會

於テ行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ
必要ノ給需ヲ缺キタル場合：於テ府縣知事ハ内務
大臣、對シ原案執行ノ指揮ヲ請フ規程^定ナリト雖改
正案ハ右ノ如ク單：消極的ノ議決ヲ為シタル場合
：止マラスシテ不當、増額シタル場合及其ノ豫算
ハ獨支出：止マラスシテ其ノ收入ヲ不當：議決シ
タル場合：モ處分ヲ請フコトヲ得^レ且具ノ處
分ヲ請ヒ及指揮スルハ共、原案：拘束ヲ受クルコ
トヲ要セスト為シタルハ共、實際：適應シ處理宜
シキヲ得^レシメシコトヲ期シタル：在リ三府縣會
府縣參事會招集：應^ス又ハ成立セザル場合若ハ
議決スヘキ事件ヲ議決セ^ス又ハ議了セザル場合：

於テ府縣知事ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ其ノ事件ヲ
處分スヘキモノト為シタリ又府縣參事會ノ決定又
ハ裁決スヘキ事件：關シテ參事會招集：應^ス若
ハ成立セ^ス又ハ決定若ハ裁決スヘキ事件ヲ決定若
ハ裁決シタル場合：於テハ右ノ例：依リ府縣知事
ヲシテ處分セシムルコト、為シ而シテ其ノ処分
不服ナル者ハ各具ノ本條ノ規程^定：基キ訴願訴訟ヲ
提起スルコトヲ得、キモノト為シタリ又府縣參事
會ノ職權：屬スル事件：シテ急施ヲ要スル場合
於テ參事會成立セ^ス又ハ招集：應^スキルトキハ府
縣知事ハ其ノ事件ヲ專決處分スルコトヲ得ルモ
ト為シタルハ現行法ヲ參酌シ之ヲ修正シタルモ

レテ實際ノ便宜ト處理ノ緩急ヲ因リ、在
現行法、於テハ府縣會ノ停會、關スル規程ヲ置
スト雖議會ノ議事紊乱ヲ極ムル、當リ之ヲ停會
テ具ノ反有テ促スハ事理、於テ尤適當ノ處置
ヘシト認メ改正案、於テハ府縣會規程ノ例、本
レ必要ナル場合、於テハ府縣知事ヲシテ五日以内
府縣會ノ停會ヲ命ズルコトヲ得ルシムルコト、為
シタリ其ノ五日以内ト為シタルハ、徒、長期ノ中
ヲ為シ議會ノ議程ヲ蹂躪スルカ如キ弊、隨
シテ生ジ、トテ則シタルニ在リ府縣官吏、府縣
政ニ關スル職務關係、關シテハ現行法中別改規
程ヲ置カスレテ專ラ官制ノ規程、依リ處理スル

ト雖既、府縣ナル團體ノ行政ヲ規定スル以上、具
ノ團體ノ事務ヲ處理スル官吏吏員ノ職務關係ハ本
制中、之ヲ規定スルヲ至當ト認ム依テ改正案、ハ
之ガ規程ヲ設テ府縣官吏府縣吏員ノ職務權限ヲ規
定シ又具ノ事務、關スル處務規程、付新、規程ヲ
設ケタリ

第三款 給料及給與

現行法、於テハ府縣吏員、給スルハ、キ給料額並旅費
額及其ノ支給方法府縣ノ名譽職員、給スルハ、キ實費
ノ辨償額及其ノ支給方法、關シテハ詳細ノ規程ヲ
設ケルコトナク且ツ具ノ名譽職員タル府縣會議員
參事會員、支給スルハ、キ滞在手當出務日當、付テハ

法律中明、其ノ最高額ヲ定メ一日一円五十銭ヲ起
ユルコトヲ許サ、ルカ為物價ノ昂騰セル現今、左
テハ適當ノ給与ヲ為ス能ハサルノミナラン殊、現
行法ノ規定、依レハ廳下居住ノ議員、毫モ給与ノ
途ナキ、依リ改正案、於テハ最詳細ノ規定ヲ設ケ
之ト今時、現今ノ狀勢、照シ尤適當ト認ムル所、
依リ丈々相當ノ規定ヲ設ケタリ
有給府縣吏員、退隱料遺族扶助料退職給与金、
シテ現行法、^{添テハ}單、府縣會ノ議決、依リ支給セシム
ト雖改正案ハ此レ等ノ給与、^定關スル規程ハ共ニ内
務大臣ノ許可ヲ受ケシム、キモノト為シ其ノ給与
ヲ受ク、ハキ權利者、ハ給与、^定關スル異議ノ申立ヲ

許シ具ノ終局ノ決定ヲ行政裁判所ノ判決ニ委シ以
テ專ラ受給者ノ權利ヲ確保スルヲ期シタリ

第五章 府縣ノ賦務

現行法ハ府縣ノ會計ナル章下、於テ府縣ハ賦改一
切、^定關スル事件、規定セリト雖改正案、於テハ之
ヲ改メテ府縣ノ賦務ト為シ之ヲ二款、分ナテ規定
シタリ

第一款 賦產營造物及府縣稅

現行法、於テハ府縣、ハ金穀等ノ積立ヲ為スコト
ヲ明許セスト雖府縣ハ府縣會ノ議決、依リ或ル特
種ノ事業、為、積立金穀等ヲ設ケ之ヲ蓄積セルモ
ノサラス依テ改正案、於テハ府縣ハ其ノ必要、

應レ或ル特種ノ事業假令ハ道路公園學校等ノ維持
又ハ救荒豫備ノ為、積立金穀等ヲ設クルコトヲ得
ハキノ規程ヲ設テリ
現行法、於テハ府縣ハ其ノ賦産若ハ營造物ノ使用
者ヨリ使用料ヲ徵收シ又ハ特、一個人ノ為ニスル
事務ノ為、手数料ヲ徵收スルコトヲ明許セスト雖
已、府縣ヲ一ノ公共團體ト為シタル以上ハ市町村
ト同シク其ノ賦産及營造物ノ使用者ヨリ使用料ヲ
徵收シ又一個人ノ為ニスル事務ノ為、手数料ヲ徵
收スルコトヲ許シ行政費ニ充テシムルヲ至當ト認
ム依テ改正案、ハ之カ規程ヲ設テ、而シテ使用
料手数料、關スル細則ハ府縣會、議決、經内務大

臣、許可ヲ受ケレメ又其ノ細則、ハ過料金ニ因
下、罰則ヲ設クルコトヲ許シ過料金ノ徵收ハ府縣
知事ヲレテ之ヲ掌ラシメ其ノ處分、對スル不服ハ
終局ノ決定ヲ行政裁判所ノ判決ニ委シタリ而シテ
使用料手数料ノ新設増額若ハ變更、付テハ内務大
臣ノ許可ヲ受ケ、ハキモノト為シタリ現行ノ府縣制
、於テハ府縣ハ府縣内市町村ノ土木工事又ハ府
縣内ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若ハ營造物、對
シ補助金ヲ与フルコトヲ得ルトノ規定ヲ設テタル
モ其ノ公共ノ利益ヲ増進スル、ハ今一層廣汎ニ寄
付補助ヲ為スコトヲ許ス可トス依テ改正案、於
テハ使、現行法ノ規程ヲ擴メ府縣ハ其ノ公益上必

要アル場合ニ於テハ府縣會議決ヲ經テ寄附若ハ補助ヲ為スコトヲ得ルノ規程ヲ設ケタリ
現行法ニ於テハ府縣稅目及府縣稅ノ賦課徵收方法ハ府縣制ノ規程ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外從前地方稅ニ關スル規程ニ依ルハキモノト為セリト雖改正案ニ於テハ從前地方稅ニ關スル規程ニシテ之カ改正ヲ加フハキモノハ之ニ改正ヲ施シ以テ本制中ニ之カ規程ヲ掲ケ其ノ足ラサル所ハ勅令ノ規程ニ委任シ殊ニ從前ノ經驗ニ徵スルニ市町村ヲシテ府縣稅ヲ徵收セシムルニ當リ府縣稅トシテ其徵收ヲ為サシムルニトキハ市町村ニ於テハ國稅市町村稅ノ外又別ニ府縣稅ニ關スル各種ノ帳簿ヲ備ヘ一

之レカ記帳ヲ為シ又其徵收金ニ國稅市町村稅ト一々之ヲ區別レ保管セサレバカラサル等ノ煩アリ然ルニ若シ之ヲ市町村稅トシテ徵收セシムルニトト為ストキハ府縣稅ノ為別ニ帳簿ヲ備ルノ煩ナク市町村ニ於テハ徵收事務ノ頗ル簡易ナルヲ以テ段正案ニ於テハ勅令ニ定ムル所ニ依リ府縣ノ費用ハ市町村具他公共團體ニ分賦スルコトヲ得ルトノ一項ヲ設ケタリ
現行法ニ於ケル府縣稅ノ賦課ニ關スル規程ハ不備ナルニ依リ之ヲ修正増補シ府縣住民ト府縣住民ニアラサル者トノ間ニ課稅上ノ權衡ヲ得セシメ又數府縣ニ涉リ納稅スル場合ニ關シ課稅上重複ヲ避ケ

レノコトヲ期シタリ今之ヲ列挙スレハ一府縣住
民ニアラスト雖府縣内ニ三箇月以上滞在スル者ハ
府縣住民ト全シク具ノ滞在ノ初メヨリ凡テ府縣
税ヲ納ムルノ義務ヲ有スル者ト為シ(三)府縣内ニ住
居ヲ構ヘス者クハ三箇月以上滞在スルコトナレト
雖府縣内ニ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ
營業所ヲ定メテ營業ヲ為シ又ハ府縣内ニ於テ特定
ノ行為ヲ為ス者ハ府縣住民ト全シク具ノ土地家屋
物件營業若ハ具ノ所得ニ對シ又ハ行為ニ對シテ賦
課スル府縣税ヲ納ムル義務アルモノト為シ(三)又所
得ニ對シテ賦課スル府縣税ノ賦課方法ヲ規定シテ
納税ノ重複ニ涉ルヲ避ケ教府縣ニ涉リ為ラ^ラ營業者

：營業税附加税ヲ賦課スル場合ノ課税方法ヲ規定
スル等府縣税ノ賦課ニ関スル原則ハ市町村制等ヲ
參酌シ現行法ニ比シ更ニ之ヲ詳密ニ規定シタリ
現行法ニ於テハ府縣内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル
土本事業ヲ起ストキ、限リ課部^部ニ對シ支役現品
ヲ増課スルコトヲ得ル規程アリト雖改正案ニ於テ
ハ土本事業ニ限ラス廣ク府縣ニ必要ニ應レテ支役
現品ヲ賦課スルコトヲ許シ又之ヲ金田、代ユルコ
トヲ得ル場合ト否トヲ判明ナラシメタリ其他府縣
郡内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ関シテハ具
ノ利益ノ程度ニ應シ不均一ノ賦課ヲ為シ又專ラ府
縣内ノ一部ヲ利スル事件ニ関シテハ具ノ費用ヲ一

部ノミ、賦課スルコトヲ許シタリ但シ其ノ賦課若
ハ丈役現品ノ賦課ニ関シテハ内務大臣ノ許可ヲ受
ケレハルコト、為レタリ
現行府縣制第六十八條ニ於ケル府縣稅ノ賦課ニ関
スル訴願ノ規程ハ甚ク判明テ缺クモノアルヲ以テ
改正案、於テハ府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者ニシテ
其ノ課稅ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムル云々ト最
判明ナル規定ヲ設ケタリ又改正案ニ於テハ新ニ規
定シタル使用料手数料ノ徵收ニ関シテモ其ノ違法
若ハ錯誤アル場合ニ於テハ府縣稅ト合シテ訴願訴
訟ヲ提起スルノ道ヲ設ケルヲ必要ト認メ新ニ之レ
ヲ規定ヲ設ケタリ

又改正案、於テハ府縣稅並使用料手数料ノ賦課徵
收ニ関シテハ府縣知事郡市長島司町村長ニモ亦訴
訟ヲ提起スルコトヲ得レハルコト、為レ以テ現
行法ノ不備ヲ補ヒタリ
現行法、於テハ府縣稅全ノ滯納者ニ関シテノ國
稅滯納處分法ヲ適用スル旨規定セリト雖改正案
ハ其ノ他ノ公課即府縣ニ於テ徵收スル使用料手
料丈役現品ニ代フル金圓其ノ他府縣ノ公法上ノ收入
ノ徵收ニ関シテハ凡テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ處
分スヘキモノト為レタリ
又現行法、於テハ府縣ノ滯納處分ニ関シテ訴願訴訟
ノ提起ニ関ル規定ヲ設ケルコトナシキト雖

此レ等重要ノ處分、關シテハ、訴願訴訟ヲ為スニト
ラ得セシメテ以テ枉屈ノ弊ヲキテ豫防スルノ極
必要ナリト認メタルニ依リ改正案、於テハ府縣ノ
滯納處分、付テモ亦訴願訴訟ヲ提起スルノ道ヲ設
ケタリ

第二款 府縣郡ノ歳入出豫算及決算

現行法、ハ府縣、特別會計ヲ設ケルコトヲ明許セ
スト雖府縣ノ特定ノ事業ノ資金及經費ヲ一般會計
ニ屬セシメス特別、蓄積スルモノ尠カラシムルニ依
リ改正案、於テハ明、之ヲ規定シタリ而シテ財政
監督ノ目的、為、其ノ特別會計ノ設置、關スル事
件ハ府縣、内務大臣ノ許可ヲ受ケレハルコト、為

シタリ

現行法、於テハ府縣知事、於テ府縣ノ出納ヲ検査
スル、關シ別段ノ規程ヲ定メテ雖府縣ハ出納ハ嚴密
周到ニ監視セシムル必要アリト認メ改正案、於テ
ハ其ノ検査ヲ例月検査ト臨時検査ト、分テ府縣知
事名譽職等事會員ト共ニ検査ヲ行フヘキモノト為
レタリ又現行法、於テハ官吏及吏員ノ身元保証及
賠償責任金庫、關スル規定其ノ他府縣ノ財務、關
シ詳密規定ナシ是等、關シ法律中複雑最モ詳密ナル規
定ヲ設ケルハ必要ナルヲ以テ改正案、於テ概不之
ヲ勅令ノ規定ニ讓リ以テ精密ナル規定ヲ設ケシ
ルコト、ナシタリ

豫算

ルコト、ナシタリ

第六章 府縣行政の監督

現行法：於テ^單府縣ノ行政ノ開スル訴願ハ其ノ事
件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内
：内務大臣：提出スヘシトスルモノ市町村制等
於テモ訴願ハ凡ク監督處分ニ對シ更ニ上級ノ監督
廳ニ提起スルノ原則ニ為ラズ以テ府縣行政ノ最高
監督者ノ内務大臣ノ處分ニ對シ更ニ内務大臣
：訴願ヲ提起スヘキモノト經テ^{シ得ヘキモ是レ訴願ニ關スル}一般ノ原則
及^{スルヲ以テ}結局現行法ノ規程ハ訴願期限ヲ規定シ
モ^{異議訴願ヲ提起スル期限ニ關スルモノトシテ明ラカニセリ}其ノ規定ノ專ラ
凡ク府縣制中ノ規定スル異議訴願ヲ提起スル期
限ノ規定ハハコトトシテ^{又改正案ニ於テ或ル事}

項ニ付テハ異議ノ申立ヲ許シ其ノ申立ニ對シテハ
夫々決定スルコトニ為レタルニ依リ其ノ決定ハ訴
願ニ對スル裁決ト同レク理由ヲ付シ申立人ノ決定
書ヲ交付スルヲ至當ト認メ新シク規定ヲ設ケタ
リ又現行法：於テハ訴願訴訟ヲ提起スル者アリタ
ル場合ニ於テハ一般ノ訴願法及行政裁判法ニ依リ
處分ノ執行ヲ停止セザルノ原則ト為レトモ^{異議ニ付テハ何等}改正案
：於テハ異議ノ提起ニ關シテモ處分ノ執行ヲ停止
セザルモノト為レ併ニ其ノ原則ヲ規定セリ
現行法：於テハ通常會^{トシテ}府縣會ヲ解散シ其ノ
未ク議決ヲ經ケル議案ヲ解散後ノ議會ニ付議スル
場合：於テモ臨時會ノ會期ニ依ラザルヲ得ザル

異議ニ付テハ何等
規定
依

不便アルヲ以テ改正案、於テハ如此場合、處スル
為解散後ノ議會、一般ノ會期、依テスル府縣會、府
縣知事、於テ内務大臣ノ許可ヲ受ケ別、會期ヲ定
ムルコトヲ得ヘキモノト為レリ
現行法、於テハ學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件
ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ為ス場合、監督官廳ノ
許可ヲ受クヘキ規定ナシト雖市制所村制ノ規程ヲ
參酌シ新メ之レカ規程ヲ設ケ内務大臣ノ許可ヲ
受クヘキモノト為レリ又現行法、於テハ府縣有不
動産ノ賣却讓渡等ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘキ規
定ナルモ右ハ實際繁冗、過キ實效ナキヲ以テ改正
案、之ヲ削除スリ

現行法、於テハ地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ
土地ノ賦課スルトキハ内務大臣及大蔵大臣ノ認可
ヲ受クヘキ規程ナルモ土地ノ負擔ハ尙具制限ヲ寬
ムルモ土地所有者ノ苦痛ヲ感ヒシムル虞ナシ
ト認ムルニ依テ改正案、於テハ地租二分ノ一ヲ超
過スルトキ^始許可ヲ要スルモ^{コト、ナシ事務ノ簡捷ヲ期シテ}
現行法、於テハ府縣郡ノ行政、關シ監督官廳ノ許
可ヲ要スヘキ事項中輕易ナルモノ若クハ緊急ヲ要
スルモノ、付監督官廳ニ於テ直ニ更正シテ許可ヲ
與スルノ規程ナシト雖如此ノ規程ヲ存スルハ實際
ニ於テ極メテ必要ナルヲ以テ改正案、於テハ新
之カ規程ヲ設ケナリ

現行法ニ於テハ府縣郡ノ行政ニ関シ主務大臣ノ許
可ヲ受クハキ事項中具ノ事ノ輕易ニ屬スルモノハ
シテ主務大臣ノ許可ヲ必要トセザル事項ニ関シテ
モ一々許可ヲ請ハザルヲ得ルカ如キ徒ニ行政事
務ノ煩雜ト渋滞トヲ免カレザルモノアリ依テ改正
案ニ於テハ具ノ事ノ輕易ニ屬スルモノハ勅令ノ規
程ニ依リ府縣行政ニ関シテハ府縣知事ヲ直ニ
處分トシメ以テ行政事務ノ簡捷ヲ期ス

第七章

附則

府縣稅及具ノ府縣稅ノ賦課徵收方法、府縣制中規
程ノ施行ニ關シテハ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルモノ
ト爲ス、リトモ改正法施行ノ際勅令ヲ發布ス

ハ事務ニ支障ヲ生ズルノ恐アリ依テ法律命令ヲ以
テ別段ノ規程ヲ設ケルマテ従前ノ規程ニシテ府縣
制ニ依リ變更シタルモノヲ除外凡テ仍効力ヲ有
スルモノト爲シタリ
以上ハ改正案中重要ナル事項ヲ列舉セシ、過キス
レテ具ノ他現行法ノ規程ニ對シ修正増補シタル點
點シト爲サス

